ひなんじょであそぼう

(発行) 2014年
(発行人)みらいTALK
miraitalkhamamatsu@gmail.com
http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv/
(デザイン) 桑田亜由子
(SPECIAL THANKS) 片岡祐介

みらいTALKとは

当会は、障がいの有無や家庭環境に関わらず、浜松市及び近隣の地域に住む全てのこどもにとってより良い未来、地域社会を築くことを目的とし、こどもに関わる多職種（医師、保健師、臨床心理士、保育士など）が集まり、2009 年 5 月より “こどものより良い未来を創る会” として活動し、2013 年 4 月より “みらい TALK” に改称しました。
こどもと家族、そしてそこに関わる人々を “つなげる” “ささえる” “しらべる” “ひろげる” 事業を展開しています。

ふじのくにNPO活動基金助成事業
「障がいをもつ子と家族のためのサバイバルキャンプ＆防災ワークショップ2014」

（主催）みらいTALK
（共催）浜松市/ 浜松市社会福祉事業団
（後援）浜松市教育委員会/静岡県/静岡県教育委員会

このブックレットは
「障がいをもつ子と家族のための防災サバイバルキャンプ」から生まれました。
2013年、2014年に実施した障がいをもつ子どもたちとの
模擬避難所体験を通してわたしたちは遊びの重要性を痛感しました。
緊急時、災害が起きたとき、避難所にいくとき…
まずあそびのことを考える人はいないでしょう。
しかし、子どもがあそびはじめられる状況があると、場に一瞬の安堵が生まれ、
おとなもこれからのことを考え始めることができます。
あそびは文字通り、緊急時に“あそび＝余白、余地”をもたらしてくれるもの。
なにもないところで、避難所にあるもので、
どうあそぶかという練習も大事な防災訓練です。
ここに記されたあそびは保育士や心理士が考えたものもあれば、
子どもたちやその場にいた人たちの間で自然と生まれたものもあります。

「ピンチのときこそ、さぁ、あそぼう！」
このことを、子どもたちを守るための備えとして多くの方と
共有していきたいと思います。

障がいをもつ子と家族のための
サバイバルキャンプ＆防災ワークショップ
実行委員会

03…ダンボールがあった
05…しんぶんしがあった
07…かみがあった
09…スニーカーがぬれてもかっぱがきた
11…ひかりをともす
13…ゆり
15…サバイバルミュージック
付属CD…サバイバルミュージック

避難所にきた

これからどうなるのかわからない

おとなは、ソワソワ、心配だらけ
子どもも、ソワソワ、ぐずぐず、メソメソ

こんなときこそ、あそびがくすり
こんなときこそ、あそびがちから

子どもたち、さぁ、あそぼう！

ダンボールがあった

ダンボール **マジック** **カッター**

食糧や水の入っていた箱や避難所の仕切り用の大きなダンボールは、たちまち子どもたちの格好のあそび道具となった。家族スペースの仕切りも、大きなキャンバスとなり、好きなキャラクターを描いたり、小窓をつくったり…。避難所の家族の空間の仕切りは物理的な役割以上に、家族の精神的な守りとなった。そこに描かれた子どもたちの絵や細工に、大人の表情も思わず緩んだ。

大きなつみき

大きなキャンバス

お気に入りのキャラクター

ひっぱったり

ひっぱられたり

ぼくのへや

わたしのベッド

まほうのじゅうたん

キャラピラ

でんしゃごっこ

トンネル

ぼくは電車の運転手

しんぶんしがあった

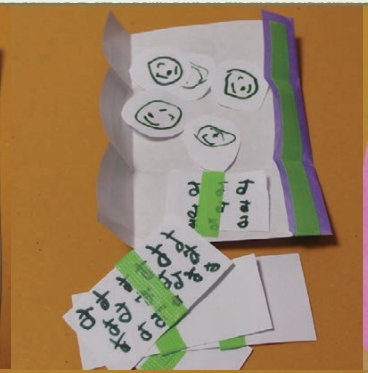
新聞紙　ダンボール　ブルーシート　ガムテープ　ビニール袋

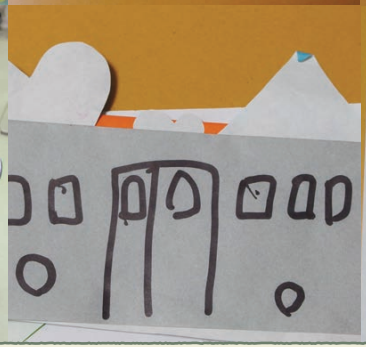
ブルーシートの上にダンボールをガムテープでつなげて枠組みを作り、そのなかに新聞紙をちぎって投げ込んだ新聞紙のプール。動きの激しい子も、思うように動けない子たちもそれぞれのペースであそべるように、二つのプールを用意した。ブルーシートの上に設置すると、ちょっとした場所移動にも、片付けにも、好都合だった。遊び終わった新聞紙は、ビニール袋につめられ、また新しいおもちゃになった。

かみがあった

折り紙 **マジック** **はさみ** **テープ**

おとなたちの話し合いの間、そばからはなれられない子も、紙があれば、静かにゆたかにあそびはじめた。避難グッズのなかに折り紙を入れておくと、子どものあそびやメモ用紙がわりなど、ちょっとしたときに役立つかも。



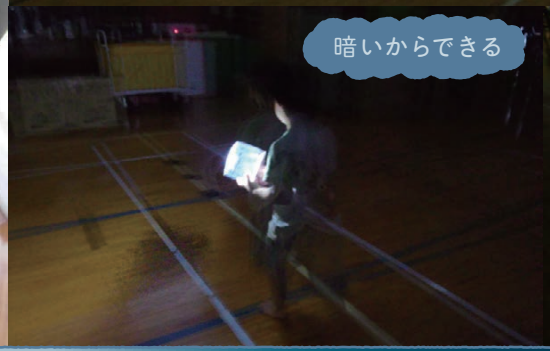


ビニールぶくろがあった

ビニール袋　ガムテープ
はさみ　マジック

ビニール袋を　てそこに絵や字をかいた。ビニール袋に空気を入れてふくらませれば、大きな風船。そこに顔をかけばコミカルな人形のできあがり。

夜がきた

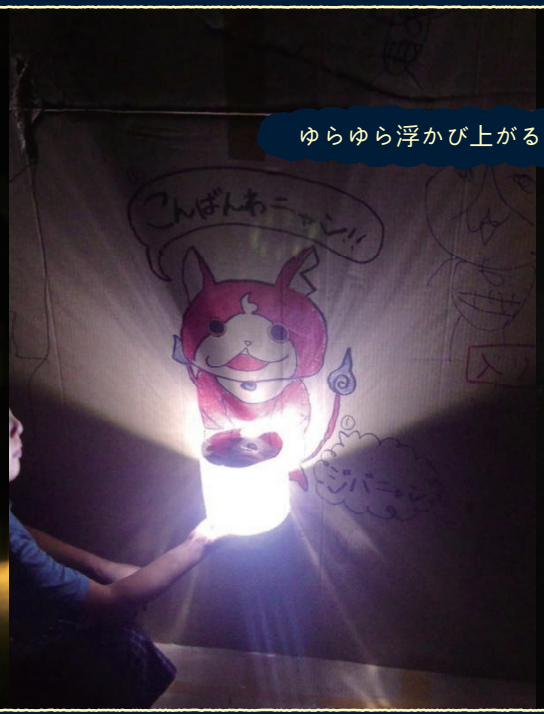


ひかりをともす

投光器

昼にビニールに描いた絵も、夜になってから、ライトアップして、発表会をした。ひかりを当てたところだけ見えるので子どもたちも注目しやすい。「ぼくの、あの絵、出てくるかな？」と目を凝らしてみていた。

見たいものをライトアップ。



ゆらゆら浮かび上がる、

昼間とひと味ちがう、
ぼくらの絵。

かげ

投光器 **ビニール袋** **ガムテープ**

大きく、小さく、壁に投影される影を見ながらぐるぐるおどった。指や体でいろんなかげ絵を作ってみた。ビニール袋にガムテープを貼って絵や模様をつくった。ガムテープを駆使して精密な絵を描く子もいれば、ぺたぺたとビニールに張り付くガムテープの感覚そのものを楽しんでいた子もいた。

サバイバルミュージック

ピアノ　鍵盤ハーモニカ　ビニール　袋　新聞紙　ペットボトル　空き缶　花火
虫の音　声

Special Guest　片岡祐介さん（音楽家・打楽器奏者）

避難所となった体育館の倉庫の奥にあった古いピアノを
ブルーシートにのせて運びだした。

音楽家片岡祐介さんが
鍵盤ハーモニカ一台をもって避難所に来た。

ダンボール、子どもたちが絵を描いてあそんだビニール、
新聞紙をつめた袋、ペットボトル、空き缶、拍手、子どもの声、
そして遠くであがる花火の音や虫の音など…
そこにあるものが楽器になり、
そこにある音がすべて包み込まれた曲が生まれた。

バキーがきしむほど音にあわせて体を揺らしていた子も、
前に踊り出ていった子も、大きな音にちょっとびっくりしていた子も、
音楽が終わり体育館に静寂がもどると

一斉に眠りについた。